

時代を紡ぐ

6月のとある週末、祭好きの私は、日本三大祭に数えられる「山王祭」を一目見てみたい思いに駆られ、京橋に足を運んだ。2018年以来、コロナ禍を経て6年ぶりの開催。賑やかなお囃子の中、氏子たちが高張提灯を掲げ、息の合ったかけ声で神輿を揺らす姿に、見物人ながら心が躍った。

生まれ育った町にも「ホーエンヤ祭」という祭がある。神輿、榊（さかき）、麒麟獅子舞、大名行列、武者行列、子供神輿が一連の行列となり、町中を練り歩く。行程の途中で、ホーエンヤ船に乗り込み、複数の伝馬船とともに川を下ることから、「ホーエンヤ祭」と呼ばれている。江戸時代初期に始まり、およそ350年間引き継がれている伝統的な祭で、県の無形民俗文化財に指定されている。

2年に一度の大祭は、小さな子供からお年寄りまで参加する町の一大行事である。小学生の下学年は子供神輿、上学年は大名行列、中学生は榊、高校生は武者行列、二十歳前後の青年が麒麟獅子舞、大人たちは、神輿、伝馬船を担う。祭が近づくにつれ、練習にも熱が入り、夜遅くまで太鼓や鐘の音が町中に鳴り響く。小さな頃から慣れ親しんだ拍子聞き、胸が高鳴る。

当日、町は総出の大祭。それぞれが衣装を整え、神社の参道に集結する。境内で神事が終わると、それぞれが動き出し、町中でかけ声と拍手が交差し、たくさんの笑顔で溢れかえる。水上では、「ホーエンヤ!」のかけ声が響き渡り、祭を盛り上げる。神輿の御宮入りで祭は最高潮となり、麒麟獅子舞の勇壮な舞いで幕が閉じる。終わった時のやり遂げた達成感と心地よい疲労感がたまらない。この町に生まれてよかったと感じる瞬間である。

江戸時代から350年もの間、引き継がれてきたホーエンヤ祭。長い歴史の中で、前の人から次の人へと受け継がれ、その時代に合ったやり方に少しずつ形を変えながらも、途切れることなく今日まで引き継がれてきたことに畏敬の念を感じる。ときには天災や流行り病があり、途絶えてしまう危機も何度もあったことと思う。その度に、この町で生きた多くの先人たちが、強い思いをもち知恵を出し合い乗り越えてきた。時代は大きく変わろうとしているが、私たちの世代が次の世代へとしっかり引き継いでいかねばならない。次の世代の主役は子供たち。子供たちが大きく成長し、麒麟獅子舞を舞う姿が待ち遠しい。

時代を紡ぎ、故郷の原風景をいつまでも。

(E. H)

